

「もう一度オリンピックに挑もう」と決意した背景

私は、一九九二(平成4)年のバルセロナ五輪で銀メダルでした。そのとき、金メダルを取ったエゴロワ*選手の走りがすごかった。それを見て、彼女の強さを自分も身につけたいと思ったし、練習にしても待遇の改善にしても、やりたいことがいっぱいありました。

メダルを取ったので、自分のやりたいことのできる環境が自然に整うと思ってました。具体的なビジョ

「なんで?」と思わず、「せっかく」と思えば、
その出来事には肯定的な意味がある

ありもり・ゆうこ
1966年岡山県生まれ。92年バルセロナ五輪大会では日本女子陸上競技64年ぶりのメダルを獲得。96年アトランタ五輪で2大会連続メダリストの快挙。その後、肖像権の自主管理を主張してプロ宣言をし、日本の“プロランナー”の草分けとなる。現在は国内外のマラソン大会やスポーツイベントに参加する傍ら、カンボジアの地雷被災者の社会復帰や自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動などを目的とした認定NPOハート・オブ・ゴールドの代表理事、スペシャルオリンピックス日本理事長として、国際的な社会活動等にも取り組んでいる



Yuko
Arimori